

教員のためのリフレクション・シート(教職課程履修学生用)

このリフレクション・シートは、記入者が仲間や教員とともに、各項目に対して考察を深めるプロセスを経て、記入されることが大切です。各項目が自分にとって意味するところを考え、具体的な自分の行動に結びつけて考えられるようになりましょう。

必要な資質能力の指標		自己評価						
大項目	小項目	文科省の分類	履修の検討スタート時点(1年)	履修登録決定時点(2年)	教育実習の準備開始時点(3年-4年)	教育実習終了時点(4年)	「教職実践演習」終了時点(4年次末)	振り返って見えてきた自分の課題
	【文部科学省の定める分類】 ①使命感や責任感、教育的愛情に関する事項 ②社会性や対人関係能力に関する事項 ③生徒理解や学級経営等に関する事項 ④教科等の指導力に関する事項	左記の①-④	解説を聞いて自分なりに意味を考えたい項目に○をつける	○(できていない)△(課題である)×(意識していたがなかった)★(意味がわからない)	今回の実習で特に自分で興を付けようと思う項目に○をつける	まだできていない今後の課題に○をつける	1. 知らない 2. 一般的知識や理論として知っている 3. どのようにするかを知っている 4. してみせることができる 5. 実践している 6. マスターしている N. これまでに実行の機会がなかった	
省察と成長の力	1 教員の専門性とは何かについて常に探求している。	1					1 2 3 4 5 6 N	
	2 継続的な研修や授業などで、専門家としての成長を図っている。	1					1 2 3 4 5 6 N	
	3 教育実践に関連する最新事情について情報を得ている。	1					1 2 3 4 5 6 N	
	4 自分自身の能力、長所と短所についてよくわきまえて行動している。	1					1 2 3 4 5 6 N	
	5 他人からの評価やフィードバックを自己の成長に活用している。	1					1 2 3 4 5 6 N	
対人関係の力	6 人との関わりを求め、相手に合わせた効果的なコミュニケーションをとっている。	2					1 2 3 4 5 6 N	
	7 人の話を無条件に肯定的関心を持って聞いている。	2					1 2 3 4 5 6 N	
	8 自分の感情や行動に自覚的である。	2					1 2 3 4 5 6 N	
	9 グループダイナミクス(グループの中で起きる相互作用)を理解した上で、行動している。	2					1 2 3 4 5 6 N	
	10 異なる文化や考え方を持つ人同士のコミュニケーションにしばしば起きるすれ違いや誤解などについて理解した上で、対応している。	2					1 2 3 4 5 6 N	
教育者としての力	11 人と協働(共通の目的に対して、協力し、共に活動すること)し、または人々が協働できるような雰囲気をつくり出している。	2					1 2 3 4 5 6 N	
	12 自分のアイデンティティや価値観が、人に対するふるまいかたに影響していると自覚して行動している。	2					1 2 3 4 5 6 N	
	13 教師としての自分の行動が生徒にどう影響しているかを認識している。	2					1 2 3 4 5 6 N	
	14 生徒たちが将来の仕事や人生の中で関わっていかなくてはならない社会規範を知っている。	3					1 2 3 4 5 6 N	
	15 教育の基盤として、人権について学び、人権を尊重する風土を作っている	3					1 2 3 4 5 6 N	
	16 生徒のアイデンティティや価値観の発達について理解している。	3					1 2 3 4 5 6 N	
	17 生徒の身体的・心理的・知的・社会的発達について知っている。またその過程で同時に起こりうる変化や課題について知っている。	3					1 2 3 4 5 6 N	
	18 発達や学びがそれぞれの生育環境や文化などの要因に影響されていることを知っている。	3					1 2 3 4 5 6 N	
	19 教育学の主な理論に関する知識を持ち、必要な時に参照している。	3					1 2 3 4 5 6 N	
	20 生徒に起こりうる問題について指摘したり対応したりする方法を知っている。また、個人や場合に即した対応をしている。	3					1 2 3 4 5 6 N	
	21 生徒が自由に発言できる安全な場をつくっている。	3					1 2 3 4 5 6 N	
	22 生徒が自律性を身につけていく環境をつくっている。	3					1 2 3 4 5 6 N	
学習指導の力	23 知識や文化の継承、批評、解釈のプロフェッショナルとして、生徒を教えている。	4					1 2 3 4 5 6 N	
	24 自分が教える教科やプログラムに関する十分な知識を持ち、生徒に対し、適切な方法で課題を提示している。また、課題を確実にこなすことができる。	4					1 2 3 4 5 6 N	
	25 表現や記述のもととなる背景や考え方について深く読みとり、熟慮している。	4					1 2 3 4 5 6 N	
	26 科学的な思考法を持ち、さまざまな社会的問題・事象について生徒にも深い思考を促している。また、自らもその社会の一員として解決に積極的にかかわっている。	4					1 2 3 4 5 6 N	
	27 生徒たちが過去に何をどのような方法で学習してきたかを自分の教育内容と方法につなげている。	4					1 2 3 4 5 6 N	
	28 生徒たちの言語能力が学習に与える影響を考慮した上で実践を行っている。	4					1 2 3 4 5 6 N	
	29 教育方法に関して十分な知識や技術を持って、状況に合わせて実践している。	4					1 2 3 4 5 6 N	
	30 担当の学級全体のために、またそこにいる生徒一人一人のために、学べる環境をつくっている。	3						
	31 さまざまな学習理論を知っており、生徒の特徴に合わせて実践に活用している。	4					1 2 3 4 5 6 N	
	32 教科内容の学習における生徒の進捗度及び関連する能力の習得度を具体的に評価している。	4					1 2 3 4 5 6 N	
	33 カリキュラムとその編成に関して十分な知識や技術を持っている。	4					1 2 3 4 5 6 N	
	34 生徒たちの学習の仕方、学習に対するニーズを知っていて、それに対応している。	4					1 2 3 4 5 6 N	
	35 生徒の将来の職業や日々の生活において、学習内容がいかに大切であるか実感させている。	4					1 2 3 4 5 6 N	

教員のためのリフレクションシート(教職課程履修学生用)

このリフレクションシートは、記入者が仲間や教員とともに、各項目に対して考察を深めるプロセスを経て、記入されることが大切です。各項目が自分にとって意味するところを考え、具体的な自分の行動に結びつけて考えられるようになりましょう。

大項目	必要な資質能力の指標						自己評価		
	小項目	文科省の分類	履修の検討スタート時点(1年)	履修登録決定時点(2年)	教育実習の準備開始時点(3年-4年)	教育実習終了時点(4年)	「教職実践演習」終了時点(4年次末)	振り返って見えてきた自分の課題	
	【文部科学省の定める分類】 ①使命感や責任感、教育的愛情に関する事項 ②社会性や対人関係能力に関する事項 ③生徒理解や学級経営等に関する事項 ④教科等の指導力に関する事項	左記の①-④	解説を聞いて自分なりに意味を考えたい項目に○をつける	○(できている)△(課題である)×(意識していなかった)★(意味がわからない)	今回の実習で特に自分で興をつけようと思う項目に○をつける	まだできていない今後の課題に○をつける	1. 知らない 2. 一般的知識や理論として知っている 3. どのようにするかを知っている 4. してみせることができる 5. 実践している 6. マスターしている N. これまでに実行の機会がなかった		
組織力	36 まとまりと秩序のある心地よい生活の風土をつくっている。	3					1 2 3 4 5 6 N		
	37 課題に取り組むことのできる学びの風土を作っている。	3					1 2 3 4 5 6 N		
	38 生徒たち一人ひとりが自分なりに学級活動に参画できるように、それぞれに居場所と出番を与え、全体に心配りしている。	3						1 2 3 4 5 6 N	
	39 生徒たちが互いの知識を分かち合い学習し合うよう働き掛けている。	3						1 2 3 4 5 6 N	
	40 生徒たちの力を信じ、学級運営や特別活動に活かしている。	3						1 2 3 4 5 6 N	
同僚と協働する力	41 生徒たちにとって自律的に学べる学習環境を用意している。	3					1 2 3 4 5 6 N		
	42 会議や研修に出席し、関係者の考えを把握し、自分の考えを表明している。	2					1 2 3 4 5 6 N		
	43 教育活動の準備、実践、評価のそれぞれにおいて、同僚(管理職を含む。養成の場合は、共に学ぶ仲間たち、以下同じ)と協力し合っている。	2						1 2 3 4 5 6 N	
	44 必要に応じて、同僚たちに声をかけ、協力を求めている。	2						1 2 3 4 5 6 N	
	45 同僚と協働する場で、自分の仕事のやり方や役割を伝え、連携の合意を得ている。	2						1 2 3 4 5 6 N	
学校を取り巻く人々と協働する力	46 同僚と互いに建設的な助言を求めている。	2						1 2 3 4 5 6 N	
	47 同僚と自分の個性の差異を把握し、理解した上で、同じ目的に向かって協働している。	2						1 2 3 4 5 6 N	
	48 生徒の学習状況を把握しており、同僚が利用しやすいように引き継いでいる。	2						1 2 3 4 5 6 N	
	49 学校全体の発展を常に意識しながら、自らの教育実践を行っている。	2						1 2 3 4 5 6 N	
	50 学校運営や組織化についての知識を持っており、それを活用している。	2						1 2 3 4 5 6 N	
学校を取り巻く人々と協働する力	51 保護者の社会環境や生徒への期待についてよく知っている。	2						1 2 3 4 5 6 N	
	52 場に合わせた言葉、マナーやコミュニケーションの方法を使っている。	2						1 2 3 4 5 6 N	
	53 学外関係者に、教育方法や内容についての教員としての専門的見解をわかりやすく伝え、合意が得られた形で生徒に関わっている。	2						1 2 3 4 5 6 N	
	54 組織としての学校が、他の組織と協働する際の手続きや規定に慣れている。	2						1 2 3 4 5 6 N	
	55 生徒の実習先、進学・就職先とよい関係をつくり、連携を維持している。	2						1 2 3 4 5 6 N	
56 生徒たちの校内での学びと校外での学びが有機的に連動しあうように、コミュニティ開発を行っている。	2						1 2 3 4 5 6 N		
履修登録面接時の教員からのコメントを参考に自分の今後の課題をまとめておきましょう									
教育実習時の指導教諭等からのコメントを参考に自分の今後の課題をまとめておきましょう									